『安心・安全アンケート』へのご協力ありがとうございました

NO.3

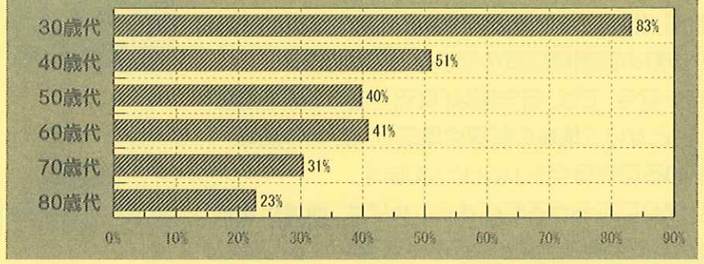
グラフの数字の単位は，全て『%』表示です。地域や性別，年代によりそれぞれ分母数が違うために割合（%）での表示としています。

なお，1人の方が2つの項目に〇をつけていますので，それぞれの数字の最大値は，100ではなく 200となります。例えば【グラフ12】の30歳代の83%は，実際には20人中約8人が〇をつけたことになります。

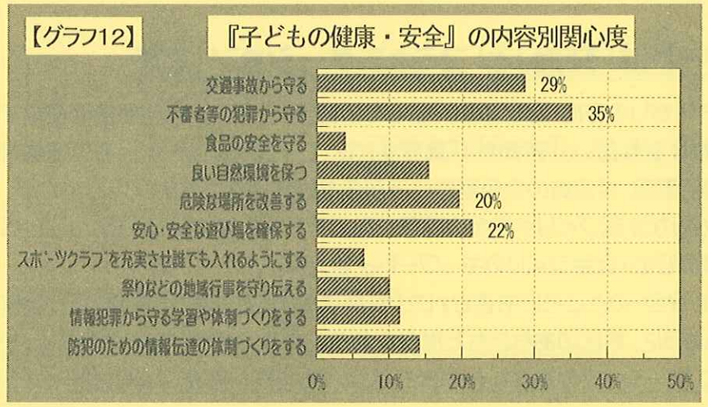
子どもの健康・安全について

『わだいすき11号』の【グラフ3】で分かりますように，『子どもたちの健康や安全を守ること』は，アンケートの中では，『お年寄りの安心・安全を守ること』に次いで，2番目に関心の高い事柄でした。

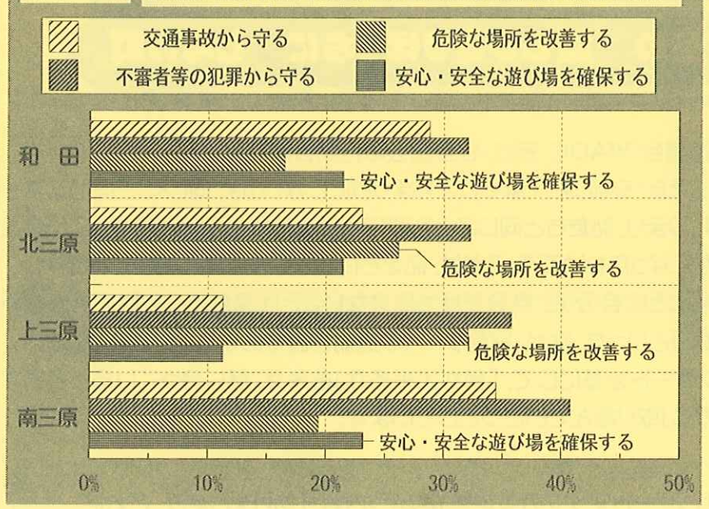
【グラフ12】 年代別に観た『子どもたちの健康や安全を守ること』に対する関心度



【グラフ12】 『子どもの健康・安全』の内容別関心度



【グラフ13】 地域別に観た『子どもの健康・安全』の内容別関心度（抽出4項目）



年代により関心の違いが！

しかし，関心の度合いを年代別に見てみますと，それが年代により変化していく様子がよく分かります。（【グラフ12】）

子育て期の年代（30～40歳代）が最も関心が高く，その後，年代を重ねると共に関心の度合いが小さくなっていきます。

これは，身近に子どもがいなくなることや年代を重ねるに従って，他の関心事が増えてくることによるものと推測できます。

また，『子どもの健康・安全』の内容別の関心度を見てみますと，【グラフ12】のように，『不審者の犯罪から守る』を筆頭に，『交通事故から守る』『安心・安全な遊び場を確保する』『危険な場所を改善する』の順になっています。

地域や性別によっても！

『安心・安全な遊び場の確保』と『危険な場所の改善』は，地域全体では僅差で3番目・4番目となっていますが，地区によって順位に違いが表れました。

和田地区と南三原地区では『安心・安全な遊び場の確保』が上位ですが，北三原・上三原地区では逆に『危険な場所の改善』の方が上位です。

ここに，住宅等がやや密集している地区と，過疎が進む地域の違いが表れているようです。和田地区や南三原地区では，場所の確保や交通量などとの関係から安心・安全な遊び場が不足していること，北三原や上三原では，施設の数に対し人の手や目が不足しており，その保全に大きな負担がかかっていることなどが推測できます。

また，グラフはありませんが，男性・女性でも似たような反応が見られました。男性が『危険な場所の改善』を上位とするのに対し，女性は『安心・安全な遊び場の確保』を上位にしています。

子どもたちを巻き込む犯罪や事故が多く報道される中，日常，お子さんと多くの時間接するお母さん方の切実な願いが表れていると受け取れます。

見守ることから一歩進んで！

具体的なご意見として，「見守りと声かけをする」という記述が35件ありました。それに次いで，「安心・安全な遊び場の確保」という記述が14件ありました。

「行政に働きかけていくべきだ」というご意見もありましたが，『朝夕の登下校時，意識的に大人たちが散歩（犬の散歩も含め）をしたり、生け垣が道にはみ出ないよう手入れをする』など，地域活動の一環として私たちの出来ることは何か？ ……

住民同士で知恵を出し合い，簡単なことはまず実行してみることが大切だと考えます。

また，印象に残ったご意見の中に，『見守るから一歩進んで』というフレーズがありました。

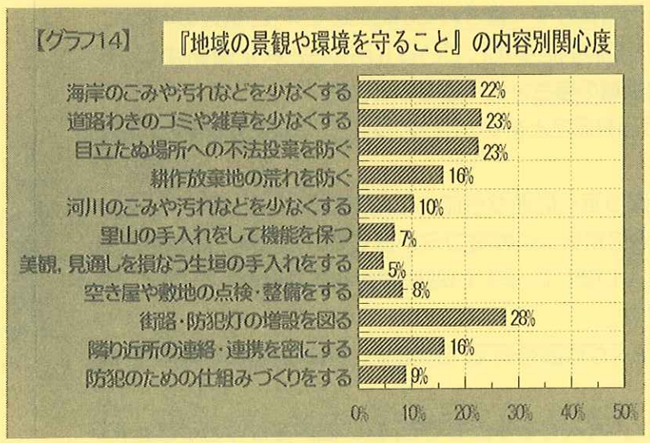
子どもを地域ぐるみで見守ることは，地域に暮らす大人たちの使命だと考えます。子どもたちが，和田地域で元気に伸び伸びと育つために，地域の住民が一緒に考え行動する必要があります。

例えば，挨拶を通して声をかけ合ったり，スポーツで共に汗を流したり，子どもの頃培った知恵や遊びを子どもたちに伝えたりするなど，得意分野を活かし，大人たち自らが子どもたちに手を差し伸べ交流し，たくましく豊かに生きる力を伝えていくことの必要性を感じます。

地域の景観や環境について

他の『安心・安全』に係わる事柄に比べて平均的な傾向です

【グラフ14】 『地域の景観や環境を守ること』の内容別関心度

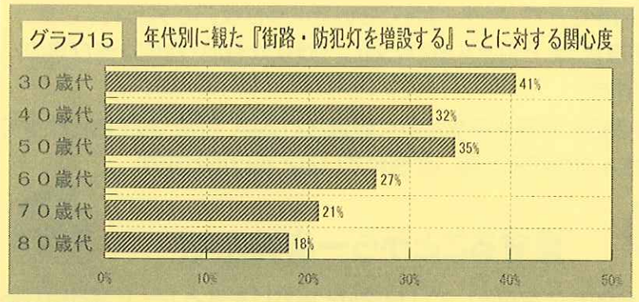


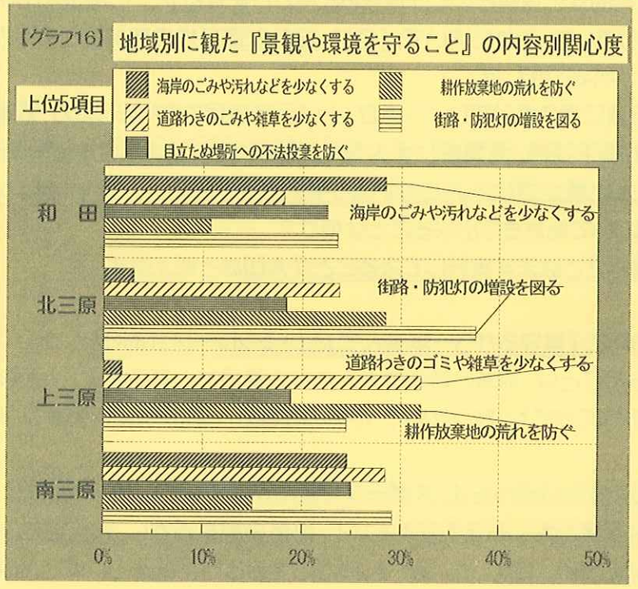
『地域の景観や環境を守ること』については，左の【グラフ14】のように『街路・防犯灯の増設を図る』の28%が最も反応の高い項目で，他に20%を超える項目が3つ，その他の殆どの項目が10%前後と，他の安心・安全の領域に比べると，項目間の凹凸が小さい傾向にあります。

地域や年代により違いも！

関心の一番高い『街路・防犯灯の増設を図る』ことについては，前の『子どもたちの健康や安全を守る』ことの記述意見の中にも「街路・防犯灯の増設を図る」ことが多く書かれていました。安心・安全の領域を横断して，地域の方々の関心や思いが表れています。

また，次頁の【グラフ15】で分かるように，特に30歳代から50歳代の子育てに関わる年代の回答には，特に高





地区により関心事の順位が違うのは，もちろん地域の環境の違いからくるものですが，はじめに述べたように，各項目間の数字（反応）の差が大きくないために，順位の逆転が容易に表れる結果ともなっています。

「ふるさと美化運動」が定着しています

記述のご意見も，100件近くいただきました。

その中でまず気づいたことは，『ふるさと美化運動』という言葉が多く書かれていたことです。ご意見の中には，行政への要望もありましたが，多くは「ふるさと美化運動へ積極的に参加している」「ふるさと美化運動はとても良いことだ」「自分の地区では毎月行っている」などの和田地域の良さを述べるものでした。

これらのことから，和田地域では「自発的に，一人一人が出来ることをやっていこう」という意識が定着し，高まってきていることを確かに感じます。

反面，『ごみの投棄』のことも多く書かれていました。「河口近くに海から流れ込んだゴミが沢山浮いている」「不法投棄する人がいるのかも」「古くからの慣例で，川や海に何気なく家庭ゴミを捨てている」など，海岸や河川のごみや住民の意識を気にかけている方々が多くいらっしゃいました。美しい海岸線を持ち，観光やサーフィンの隆盛にも重きを置く和田地域としては，当然の配慮事項です。

美しい和田地域の自然環境を守るためには，更に一人一人が意識を変え，自発的に，身の周りの環境保全に取り組んでいかなければならないと考えます。

また，『防犯対策』には，「隣近所との連絡を取り合うこと」「大人でも子どもでも，互いに声をかけ合うこと」などのご意見が書かれていました。これは，『お年寄りの安心・安全』『子どもの健康・安全』にも多く書かれていたことです。『声かけ』『隣近所のコミュニケーションづくり』が大切であることが，横断的に繰り返し登場しています。

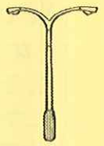
『安心・安全アンケート』へのご協力ありがとうございました

NO.4

アンケート全体を通して

地区や年代により，関心の内容に違いが見られました

アンケートでは，4つの領域の安心・安全についてお聞きしましたが，お答えを見ると『性別』より『居住地区』や『年代』に関心事の違いが大きく表れました。



地区の違いで言えば，『お年寄りの安心・安全』では幹線道路からの距離に，『子どもの健康・安全』では遊び場の確保と改善に，『自然災害』では地震に伴う2次災害の種類に，『地域の景観や環境』ではゴミの出現場所や防犯・街灯の設置要望度の違いなどになります。

また年代の違いで言えば，『お年寄りの安心・安全』では，若年層は「交流を通して安否確認や生きがいづくりを」，高年層は「外出支援を」となり，『地域の景観や環境』では，若年層は「防犯灯の増設を」，高年層では「ゴミ等に係わる環境保全を」などになります。

これらのことから，和田地域を安心・安全に暮らせる町にするためには，地域や年代のニーズに対応した，きめ細かな計画の立案と実行が不可欠になると考えます。

キーワードは『交流』と『コミュニケーション』です

『自然災害』にも『お年寄りの安心・安全』にも『子どもの健康・安全』にも，横断的に登場する言葉が「日常的なふれあい」「声かけ」「見守り」などです。これらは，子どもの健全育成，お年寄りの安否確認，災害時の安全避難に不可欠な要素となります。

おまけに，大がかりな体制づくりや資金の確保も殆ど必要としません。まさに市民レベルで出来る地域の安心・安全づくりのキーワードと言えます。

『お年寄りの安心・安全』のところにも書かれた「同世代の交流の場，子どもたちとの交流の場を作る」のように，地区のあちこちで世代を超えた交流の場づくりをすること，それを通してコミュニケーションの連鎖を作ることが，地域の安心・安全づくりの肝となるのではないかと考えます。

手を取り合い　誰もひとりぼっちに　しない町

上の小見出しは，私たち和田地域づくり協議会『WAO!』安心・安全部会の行動目標です。

『手を取り合う』は，キーワードとして押さえた『交流』を，『誰もひとりぼっちにしない』は，同じく『コミュニケーション』をイメージして使っている言葉です。つまり，私たちと同じことを和田地域の皆様もお考えになっているということが，アンケート調査を通して明らかになったわけです。これは，私たちにとって非常に心強いことです。

皆さんのご意見から，更に『自分が出来ることは自分で，自分だけで出来ないことは家族で，家族で出来ないことは地域で，地域で出来ないことは行政で』といった，安心・安全づくりの道筋を確かめることが出来ました。

今，私たち安心・安全部会では，このアンケートを基にして，「何が出来るか」を考え，話し合っているところです。そして，「出来ること」を「出来るところから」取り組んでいこうとしています。

アンケートの記述意見の中に，「ハザードマップの策定を」という内容がありましたが，これについては市で作成したものがございます。市のホームページに掲載されているほか，支所及び本庁で印刷した物をお渡しすることが出来ます。お問い合わせ下さい。